

日本学術振興会日中韓フォーサイト事業  
中間評価（平成29(2017)年度採択課題）書面評価結果

日本側拠点機関名 理化学研究所（チームリーダー・渡辺 恭良）

研究交流課題名 分子イメージングに基づく高精度細胞治療

評価結果（総合的評価）

- A 想定以上の成果をあげつつあり、当初の目標の達成が大いに期待できる。
- B 想定どおりの成果をあげつつあり、現行の努力を継続することによって目標の達成が概ね期待できる。
- C ある程度の成果をあげつつあるが、目標達成のためには一層の努力が必要である。
- D 成果が十分にあるとは言えず、目標の達成が期待できないため、経費の減額または中止が適当であると判断される。

所見

本事業は、中国・韓国との共同研究、セミナーの開催、研究者交流を効果的に組み合わせて、3か国を中核とする世界的水準の研究拠点構築を目標としている。その中で、理研を中心として、中国、韓国で再生医療分子イメージング分野の先導的研究を行っている大学とのネットワークの基盤を構築したことは評価できる。また、日本側の研究成果、シンポジウムやセミナーの開催状況は順調に進んでいると評価できる。さらに、共同研究の成果も徐々に始め、学会等での発表実績は今後の展開に繋がると期待でき、各研究機関での特徴を活かした新規共同研究への展開などの波及効果も認められる。一方で、国際共著論文等がまだ発表されていないことが課題である。また、現在は日中の交流が中心であり、韓国との交流は積極的には行われておらず、その進展も期待される。

若手研究者育成への貢献について、若手研究者間の交流活動はある程度順調に進んでいるものの、まだ積極的な交流は限られており、今後の発展が期待される。

今後の研究交流活動計画について、進捗状況報告書および計画調書には本事業目標達成へ向けた真摯な取り組みが伺える。また、これまでの交流活動で浮かび上がってきた国際交流に関する課題とそれに対する行動、今後起きる可能性のある課題に対する解決方法なども考えられており、目標の達成は概ね期待できる。